

科目名	発達障害と医療特論	担当教員	堀 有伸
科目属性	専門科目 D	単位数	2 単位 (面接 0.25)
<b>【授業の目的・ねらい】</b>			
<b>【授業概要】</b>			
<p>自閉スペクトラム症、注意欠如多動性障害、学習障害を中心とした発達障害の基本概念について学習する。その上で、医療的な立場から見た場合の実践上のポイントが、反応性愛着障害などの、二次障害の発生の予防であることを理解する。つまり、発達障害と判断される児童においては、基本となる障害があるために何らかの不適応を生じやすく、その結果として不登校のような行動異常や、不安障害などの精神障害が発生する機序への理解を深める。その上で、介入すべきポイントが、発達障害があるがために不適応を起こしてしまう局面であることへの理解を深める。</p>			
<b>【授業の到達目標】</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達障害についての基本概念を理解する。</li> <li>2. 二次障害の概念と、不適応からそれが発生する機序を理解する。</li> <li>3. 心理検査（特に WISC などの知能検査）の結果について、解釈する力を身に付ける</li> </ol>			
<b>【授業計画】</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達障害についての基礎概念の理解 -特に自閉スペクトラム症、注意欠如多動性障害、学習障害-（第 1 回～第 3 回相当） <ol style="list-style-type: none"> <li>①知的障害と学習障害について</li> <li>②自閉スペクトラム症について</li> <li>③ADHD について</li> </ol> </li> <li>2. 心理検査、特に知能検査について（第 4 回～第 5 回相当） <ol style="list-style-type: none"> <li>④知能検査（WISC、WAIS を中心に）について</li> <li>⑤心理アセスメント序論</li> </ol> </li> <li>3. 二次障害について 特に反応性愛着障害について（第 6 回～第 7 回相当） <ol style="list-style-type: none"> <li>⑥愛着理論の基礎と、反応性愛着障害について</li> <li>⑦行動療法の基礎と、ペアレント・トレーニングについて</li> </ol> </li> <li>4. そのほかの二次障害について（第 8 回～第 10 回相当） <ol style="list-style-type: none"> <li>⑧外在化障害（反抗挑戦性障害、行為障害など）について</li> <li>⑨内在化障害（強迫性障害、パニック障害など）について</li> <li>⑩小児期の他の精神疾患（統合失調症や気分障害など）について</li> </ol> </li> <li>5. 社会的場面での発達障害を持つ人の困難について（第 11 回～第 13 回） <ol style="list-style-type: none"> <li>⑪学校での困難（不登校など）について</li> <li>⑫職場での困難について</li> <li>⑬恋愛・結婚における困難について</li> </ol> </li> <li>6. 虐待および（複雑性）心的外傷後ストレス障害について（第 14 回～第 15 回相当） <ol style="list-style-type: none"> <li>⑭（単純性）PTSD について</li> <li>⑮虐待と複雑性 PTSD について</li> </ol> </li> </ol>			
科目修得試験			
<b>【評価方法】</b>			
<p>評価については、スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、科目修得試験（50%）を総合しての評価となる。</p>			
<b>【教科書】</b>			
<p>滝川一廣. (2017) 『子どものための精神医学』, 医学書院  金沢大学子どものこころの発達センター. (2013) 『自閉症という謎に迫る 研究最前線報告』, 小学館  ウタ・フリス. (2009) 『新訂 自閉症の謎を解き明かす』, 東京書籍  シンシア・ウィットナム著, 上林靖子監訳. (2002) 『読んで学べる ADHD のペアレント・トレーニング—むずかしい子にやさしい子育て』, 明石書店</p>			

齊藤万比古. (2009) 『発達障害が引き起こす二次障害へのケアとサポート』, 学研教育出版  
本田秀夫・日戸由刈. (2013) 『アスペルガー症候群のある子どものための新キャリア教育』, 金子書房

**【参考図書】**

上野一彦・松田修・小林玄・木下智子. (2015) 『日本版 WISC-IV による発達障害のアセスメント—代表的な指標パターンの解釈と事例紹介—』, 日本文化科学社  
津川律子. (2009) 『精神科臨床における心理アセスメント入門』, 金剛出版  
齊藤万比古. (2016) 『注意・欠如多動症—ADHD—の診断・治療ガイドライン 第4版』, じほう  
杉山登志郎. (2018) 『子育てで一番大切なこと 愛着形成と発達障害』, 講談社  
American Psychiatric Association. (2016) 『精神疾患・メンタルヘルスガイドブック DSM-5 から生活指針まで』, 医学書院  
ドナ・ウィリアムズ. (2000) 『自閉症だった私へ』, 新潮文庫  
カトリン・ベントリー. (2008) 『一緒にいても一人 アスペルガーの結婚がうまくいくために』, 東京書籍  
杉山登志郎. (2007) 『子ども虐待という第四の発達障害』, 学研  
宮口幸治. (2019) 『ケーキの切れない非行少年たち』, 新潮新書  
ヘネシー澄子. (2004) 『子を愛せない母 母を拒否する子』, 学研教育出版  
文部科学省 (2017) 『特別支援学校幼稚部教育要領 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領』